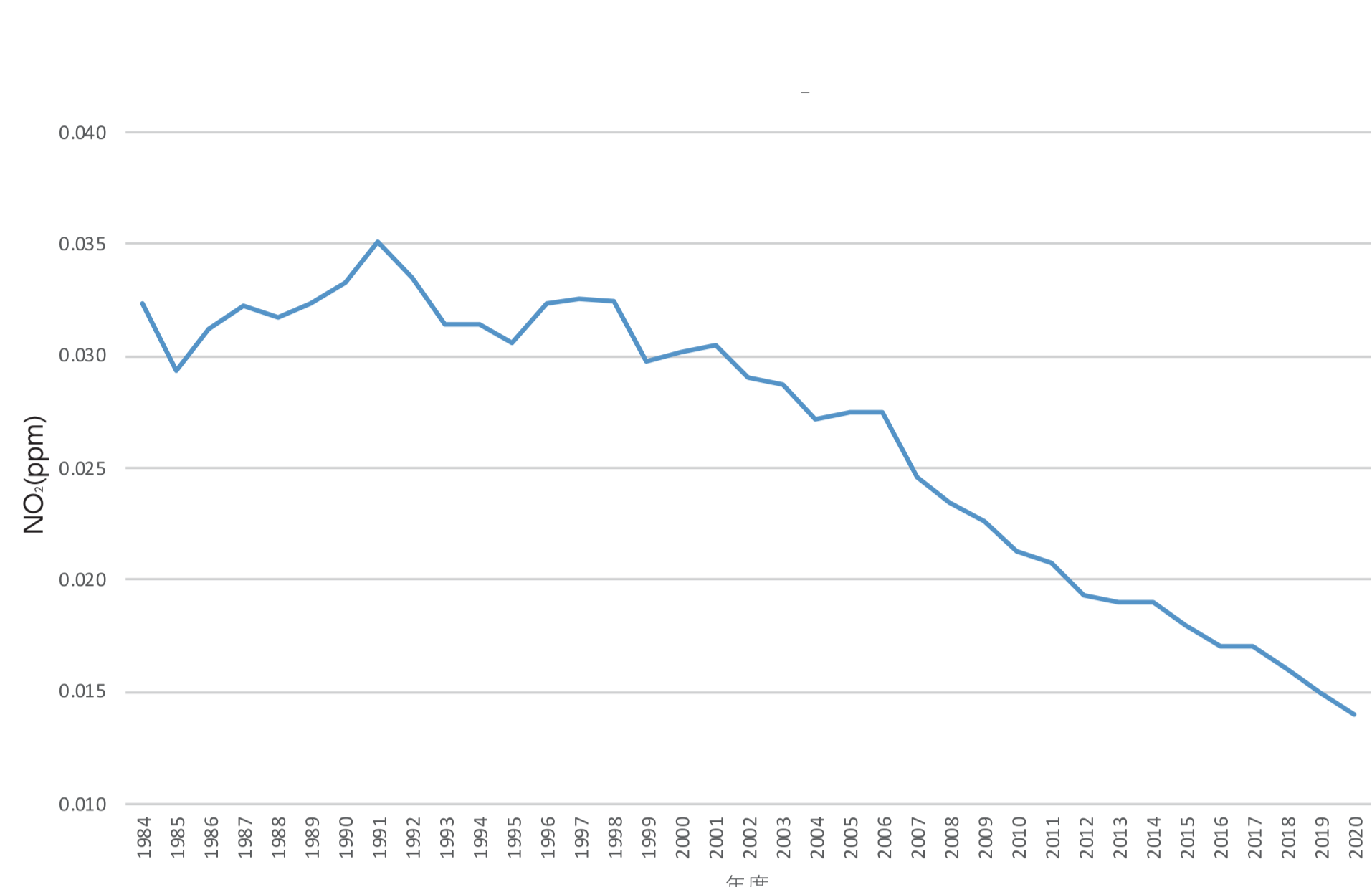


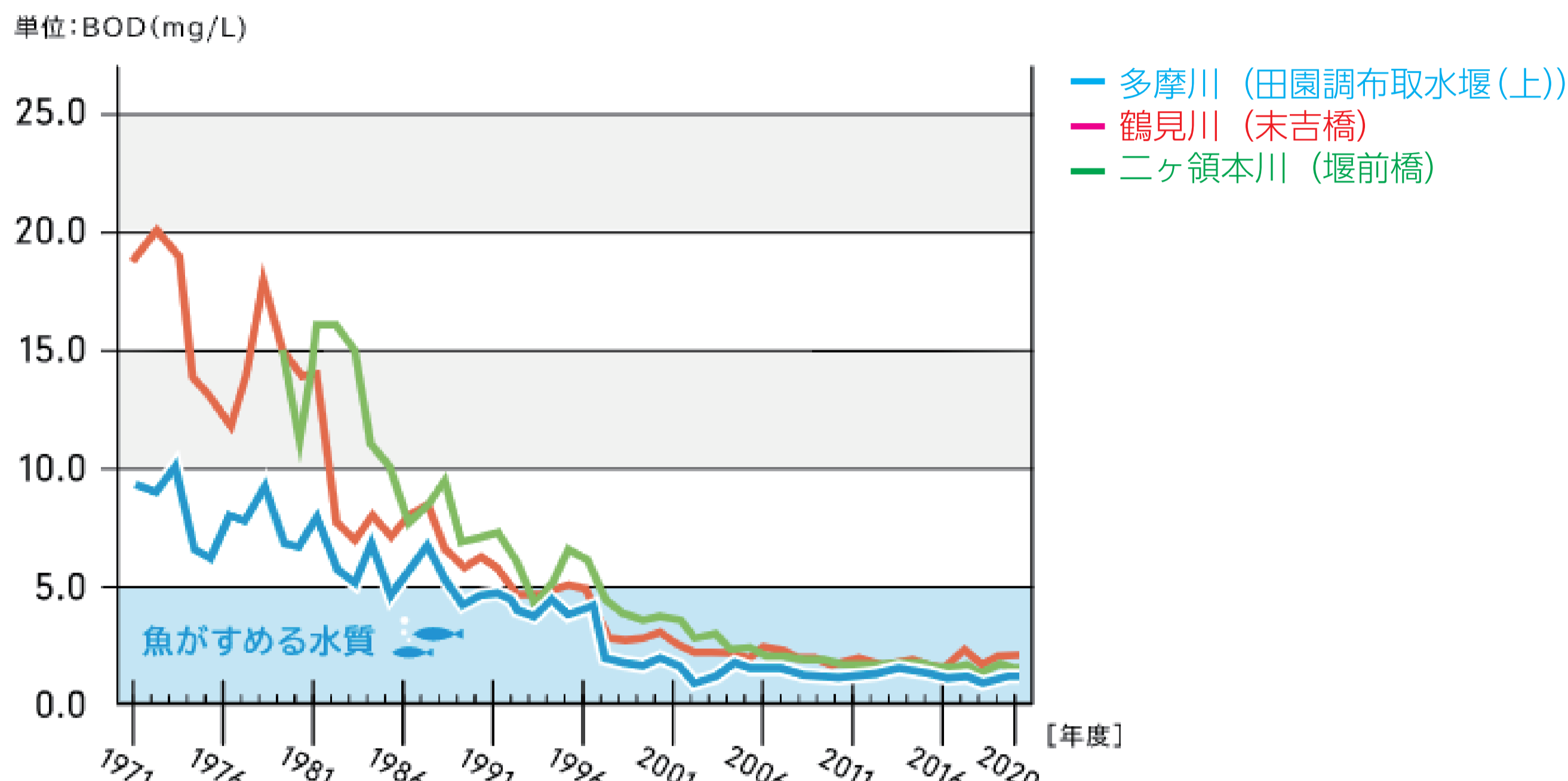
大気・水などの環境保全

川崎市の大気や水などの環境は、市民・事業者がそれぞれの立場で取組を推進し、また、行政も法律や条例に基づく取組を進めてきた結果、多くの項目で環境基準を達成するなど、大幅に改善されました。しかし、市民意識調査等の結果からは依然として市民の意識に公害のイメージが残っていることがうかがわれます。さらに、光化学スモッグの原因となる光化学オキシダントや東京湾の水質（有機物の汚れの指標である化学物質酸素要求量（COD））などまだ課題も残っています。



川崎市の二酸化窒素濃度 (NO₂) の変化

二酸化窒素(NO₂)とは、物を燃やした際に発生する物質です。主に工場や自動車等の排出ガスに含まれ、光化学スモッグの発生や微小粒子状物質 (PM2.5) 等の生成の原因になります。



河川のBOD年平均値推移

BOD(生物学的酸素要求量)とは、川の水の汚れの目安となるもののひとつです。この数字が小さいほど水がきれいであることを示します。魚がすめる水質はBOD5mg/L以下とされています。

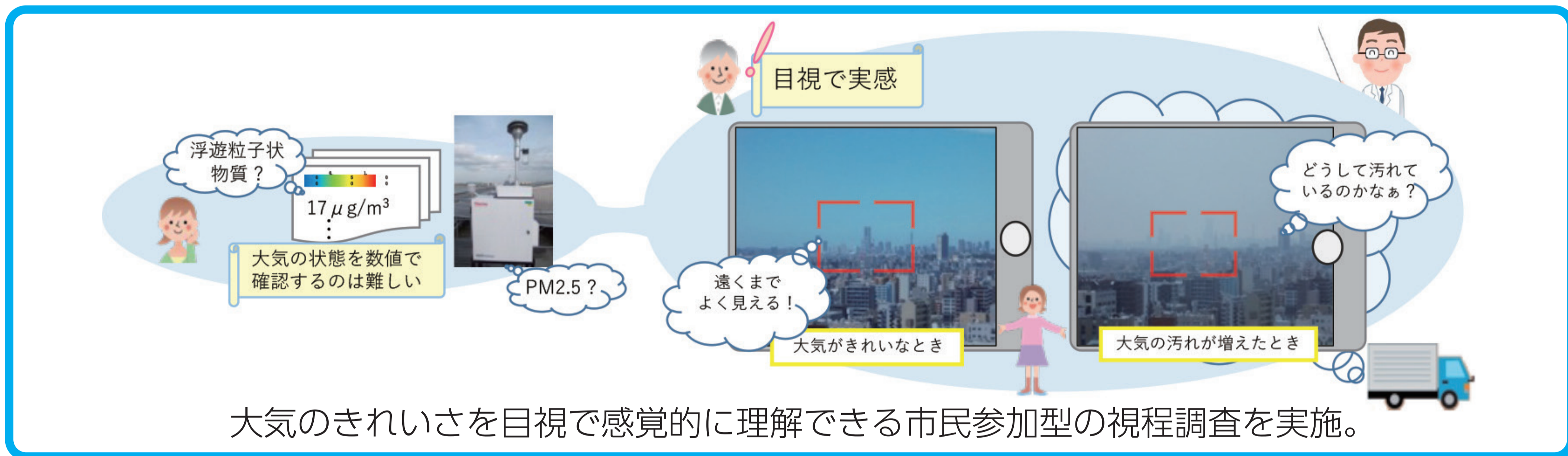
主な環境基準の達成状況

	大気					水質		
	二酸化硫黄 (SO ₂)	二酸化窒素 (NO ₂)	浮遊粒子状物質 (SPM)	微小粒子状物質 (PM2.5)	光化学オキシダント	河川・生物学的酸素要求量 (BOD)	海域・化学的酸素要求量 (COD)	
達成状況 (2020年度)	測定した全地点で達成					測定した全地点で非達成	測定した全地点で達成	沖合部で非達成
全市達成年度	1979	2013	2004	2016	—	2010	—	

そこで、さらなる環境改善及び市民実感の向上をめざして、2022 (令和4)年3月に「川崎市大気・水環境計画」を策定し、総合的に取組を進めています。その代表的な取組を紹介します。

大気や水などの環境への関心を高める

大気や水などの環境への関心を高め、環境配慮行動を促すため、以下のような取組を行っています。



市民や事業者とともに地域の環境改善について考える

市民や事業者との情報共有や対話を通じて、地域の環境改善に市民感覚を取り入れた発想やアイデアを活かす取組を行っています。その一つとして、若者を対象としたワークショップを開催し、参加者のアイデアをもとに「川崎市大気・水環境計画」の内容を分かり易く伝える環境啓発絵本を作成しました。



脱ガソリンから次世代自動車の普及を目指す

脱炭素社会の実現の観点のもとより、大気環境改善の手法としても、社会的に進んでいる脱ガソリンの流れに合わせた次世代自動車（電気自動車（EV）や燃料電池自動車（FCV）等）の普及に向けた取組は重要です。そのため、車両の導入の啓発促進とあわせて、充電スタンドや水素ステーションなどの整備を進めています。

